

## 平成22年度 第4回 鳥取大学経営協議会 議事要旨

日 時 平成22年12月10日（金） 13:30～15:15

場 所 事務局棟3階 第1会議室

出席者 岡本委員、柴田委員、長谷川委員、吉岡委員、  
能勢委員、林委員、本名委員、岩崎委員、小林委員、井藤委員、豊島委員

欠席者 安藤委員、古澤委員、平井委員

[陪席者] 山根監事、萩原副学長、高阪副学長、岸田副学長、清水副学長、  
若副学長、田中工学研究科長、中島農学部長

議事に先立ち、学長から、平成23年度概算要求における「元気な日本復活特別枠」の配分額決定に向けた政策コンテストの状況について説明があり、パブリックコメントについては、文部科学省事業への意見が全体の7割を超える結果となったものの、それらを踏まえた評価会議では、文部科学省から要望していた10の事業のうち6つがB評価、4つがC評価という非常に厳しい判定がなされた旨報告があり、最終的な国の政策決定が大学に大きな影響を及ぼすことを踏まえ、今後、厳しくなることが想定される大学運営に対し、委員各位から様々な意見を賜りたい旨挨拶があった。

### 議 題

#### 1. 職員の給与の取扱い（平成22年人事院勧告への対応）

萩原副学長から、資料1に基づき、前回の経営協議会（平成22年10月26日開催）において方向性の承認を得た平成22年人事院勧告への本学の対応について、労働契約法に基づく組合との交渉の結果、以下のとおり代償措置を提示した上で、給与については減額調整の遡及を除き人事院勧告に準拠した取り扱いとし、それに伴い学内規則等の一部改正を行うことについて説明があり、審議の結果、承認された。

＜給与引下げに伴う人件費削減額相当分の使途（案）＞

- ・教育研究環境改善経費
- ・福利厚生費
- ・安全衛生対策費

以上3件：計146,000千円

#### 2. 平成23年度学内予算編成方針（案）

林理事から、資料2に基づき、平成23年度の学内予算編成にあたっては、国の厳しい財政状況を反映して厳しい予算編成となるが、全学的な視点から積極的な事業展開を推進するため、限られた予算の重点化・効率化を図った予算配分を行う必要がある旨説明があり、審議の結果、最終的に学長に一任することで承認された。

また、政策コンテストについても説明があり、特に国立大学法人関係としては、学生の授業料減免を含む総合的な学び支援がC判定、強い人材育成のための大学の機能強化がB判定となるなど、非常に厳しい評価となっていること、また、これらを受け、中四国の学長及び国立大学協会による緊急声明を行った旨補足説明があった。

### 3. 平成23年度医学部医学科の入学定員増

井藤副学長から、資料3に基づき、新成長戦略等を踏まえた医学部医学科の入学定員増員の計画について、県内に一定期間勤務することを奨学金の返還免除条件とした地域枠として、鳥取県枠2名、島根県枠2名の計4名を増枠したい旨説明があり、審議の結果、承認された。

#### — 委員の主な発言 —

- ◇ 岡本委員から、定員増とは別に医学部の新設を容認する国の方針について質問があり、学長から、一部の大学で医学部新設に向けた検討を行っている旨回答があった。
- ◇ 長谷川委員から、医学科卒業後の医師就職率について質問があり、井藤副学長から9割を超える卒業生が医療の現場で働いている旨回答があった。

### 4. 学生寄宿舍（男子寮）の整備計画

林理事から、資料4に基づき、鳥取地区の学生寄宿舍（男子寮）について、経年劣化による老朽化が著しいため、民間金融機関から借入れを行い、学生満足度の向上及び学生募集戦略の一環として整備したい旨説明があり、審議の結果、承認された。

### 5. 中期計画の変更

小林副学長から、資料5に基づき、議題3「平成23年度医学部医学科の入学定員増」及び議題4「学生寄宿舍（男子寮）の整備計画」に係る長期借入金の償還にあたって中期計画を変更したい旨説明があり、審議の結果、承認された。

## 報 告

### 1. 平成21年度に係る業務の実績に関する評価結果

小林副学長から、資料6に基づき、11月5日に通知を受けた「平成21年度に係る業務の実績に関する評価の結果」について、4点の評価項目のうち「業務運営の改善及び効率化に関する目標」に関して、障害者雇用数・雇用率の低下、旅費システムについてチケット手配率が低下している点を指摘された他は、「順調に進んでいる」との評価を受けた旨報告があった。

なお、指摘された2点の事項については、すでに改善に向けた取り組みを進めている旨補足説明があった。

## 2. 国の平成22年度補正予算案

林理事から、資料7に基づき、国の平成22年度補正予算案について、基盤的設備2件、医療機械設備1件の計3件 114,702千円が予算措置された旨報告があった。

また、今回の設備はいずれも平成23年度概算要求において要求を行っていたものが、前倒しで予算措置された旨補足説明があった。

## 3. 平成22年度学長経費（教育・研究改善推進費、トップマネジメント経費）の採択

林理事から、資料8に基づき、教育・研究改善推進費「若手研究者等の育成（新任教員の支援）」として22名の新任教員に計4,167千円、トップマネジメント経費（公募）として乾燥地研究センター宿泊施設新営等8件の事業に計108,975千円、トップマネジメント経費（非公募）として学生支援に資する事業等3件の事業に計260,500千円を採択した旨報告があった。

## 4. その他

学長から、資料9及び資料10に基づき、大学の動き及び最近の地域貢献の取り組みについて報告があった。

### — 委員の主な発言 —

◇ 長谷川委員から、国立大学法人の運営費交付金が削減される状況の中、授業料の大幅な引き上げを行うような事態になることを危惧する意見が出され、それに対し学長から、高等教育の授業料無償化、国立大学・私立大学の授業料均等化など国から様々な意見が出ていることから、現在の国の方針では学生に負担を強いることが懸念される状況である旨回答があった。

また、そのようになった場合、地方の国立大学から都会の私立大学に学生が流れていくという事態も想定されることから、教育の質を一層向上するなど、本学のすべきことに取り組んでいかなければならない旨補足説明があった。

最後に学長から、今後も引き続き委員の皆様から様々なご意見、ご指導、ご協力を賜りたい旨挨拶があった。

以上